警鐘レポート7　小児の急性腹症に関連した死亡
事例1
＜事例概要＞ ・幼児期の患児。腹痛、嘔吐あり、近医を受診。浣腸後も腹痛が改善しないため、夕方に外来受診。 ・再度浣腸を実施し、排便なし。CTで胃拡張と小腸に限局性の拡張を認め、感染性腸炎を疑い入院。輸液と抗菌薬を投与後も、腹痛や嘔吐が続き、顔色不良のため診察。胃管を挿入、X線で胃軸捻転は否定され、胃腸炎に伴う麻痺性イレウスを疑い絶飲食とした。受診から約11時間後、呼吸数が50回/分台となった。その約3時間後、家族より様子がおかしいとナースコールあり、心肺停止の状態を発見。受診から約16時間後に死亡。 ・死因は、絞扼性腸閉塞による消化管穿孔の疑い。解剖無、死亡時画像診断（Ai）無。